

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、課題発見解決力の育成を目指した教育課程編成及び授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な取組みを推進する。</p>	<p>①生徒の学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。教科会を主体とした組織的な授業改善の充実を図る。</p> <p>②体育祭・文化祭・合唱祭及び生徒会活動の更なる活性化を通して主体性や社会性、豊かな人間性の涵養を図る。</p>	<p>①土曜日や長期休業中の講習、キャリアアップ講座等を充実させる。授業改善に向けた各教科の取組みを学校全体で共有する。</p> <p>②緊急事態に対応し、実行委員会を中心に各自が役割を意識して取り組むよう指導し、主体的な活動を通してリーダーシップを育み、コミュニケーション能力の向上など人材育成を図る。</p>	<p>①実力アップ講習やキャリアアップ講座の開講講座数や受講生徒数が前年度を上回ることができたか。</p> <p>②学校評価アンケートの学校行事・部活動等において「主体的に取り組むことができたか」等の項目において、肯定評価80%以上を達成できたか。</p>	<p>①夏季講習 34 講座、後期土曜講習 19 講座、冬期講習 6 講座を設定して、基礎学力の充実と応用力の育成を図った。</p> <p>②学校行事を通じて生徒の主体的な取組みを支援し、リーダーシップを育んだ。学校評価アンケートの該当項目において肯定評価 84%を達成した。</p>	<p>①コロナ禍の制約がある中、開講講座数や受講人数は例年には及ばなかった。今後も多様な学習の機会を設定して基礎学力の向上を図る。</p> <p>②行事の更なる活性化を図り、実行委員会等の生徒主体の運営をこれまで以上に強化し、リーダーシップが豊かな人間性、社会性の向上、グローバル社会における真のリーダーの育成を図る。</p>	<p>①コロナ禍の中で各種講習の実施や、ICTを活用した授業、リモートでの生徒とのやり取り等の浸透は、大いに評価できる。講習の受講人数をさらに増加させるため、コロナ禍を機会に、より多様な学習方法を追求してほしい。</p> <p>②活動制限がある中、学校行事実施に向けて様々な創意工夫がなされ、生徒の意欲を高めることに成功していると思われる。より行事の新しい形態等を検討し、生徒の自主性を培ってほしい。</p>	<p>①コロナ禍の制約がある中で、授業の工夫やICTの活用など、教科会を中心とした様々な授業実践に取り組んだ。生徒・教員のICT活用能力の差が課題であり、その成果に差が生じた。</p> <p>②コロナ禍においても、感染症対策を徹底した上で、生徒の主体的な取組みを支援し、体育祭と文化祭、球技大会を実施できた。合唱祭については代替行事として「ワンチーム・ワンテイク」を実施し、1度きりの校歌合唱を通じてクラスの協調性を養うことができた。また、発表の様子をオンラインで校内共有することができ、行事の新しい形態を実現化することができた。</p>	<p>①生徒の主体的・対話的で深い学びを目指し、各教科での授業の工夫やICT活用状況の情報を全体で共有し、多様な学習の機会の提供を推進する。</p> <p>②学校行事について、引き続き感染症対策を徹底して行い、生徒の主体性をより高めるために、ICTを効果的に活用した新たな行事形態も検討する。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動の活性化を通し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、心身の成長を支援する。</p>	<p>①部活動の活性化を通して主体性、社会性、豊かな人間性の涵養を図る。</p> <p>②生徒への支援体制について情報共有を密にし、様々な機関との連携や活用を図るなど、組織的な対応を図る。</p>	<p>①緊急事態に対応しながら部活動指導において、活動目標を明確化し、部員一人ひとりが組織の一員として主体的に責任のある行動をして、目標達成できるように支援をする。</p> <p>②ホームページに教育相談に関する相談窓口を周知し、教育相談を気軽に行えるようにする。</p>	<p>①学校評価アンケートの部活動の取組状況や満足度等について肯定評価80%を以上を達成できたか。</p> <p>②校内における教育相談の実施状況や学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。</p>	<p>①学校評価アンケートの部活動の充実について、1年81%、2年71%が肯定的な評価をした。</p> <p>②3年生の肯定評価は78.7%で目標にはわずかながら到達しなかった。</p>	<p>①部活動の活性化に努めるとともに、生徒の健康や生活に対する配慮を行い、バランスのとれた生活を送らせる。</p> <p>②「心の悩み」を抱える生徒の相談に関し、丁寧に個別対応し、ある程度の成果をあげている。引き続き気軽に相談できる支援体制を充実できるようにする。</p>	<p>①限られた時間での部活動を有意義にするために、活動の目的・目標を再確認しながら、内容を精査し、より密度の濃い活動にしてほしい。また、部活動の充実について、2年次の満足度が低下している点について、実態把握に努め、指導方法を検討していくべきである。</p> <p>②20分間のSHRで感染症対策を徹底していることは評価する。更に生徒支援に有効活用し、職員間の細やかな情報共有等に努めてほしい。</p>	<p>①部活動を通し、責任感や連帯感を身に付けることができた。限られた時間の中での活動に物足りなさを感じた生徒もいたようである。今後は生徒の健康や学習時間に配慮し、バランスのとれた生活を送らせるため、活動計画等を更に工夫する必要がある。</p> <p>②マスクの着用、手指消毒、室内換気、健康観察等を徹底し、新型コロナウイルス感染症予防に努め、生徒が安心・安全に学校生活を送ることができた。教育相談では目標値に届かなかったため、更に支援体制の充実を図りたい。</p>	<p>①部活動の目標を明確にし、年間活動計画に沿って活動するとともに、バランスのとれた休養日と練習時間の設定を心がける。</p> <p>②職員一丸となって引き続き新型コロナウイルスへの感染予防に努める。また、生徒支援のため、職員間の細やかな情報共有に努める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組むとともに、本校の教育改革に対応した新たな教育活動全般を見通した「新・進路指導プログラム」を策定する。	①面談(三者、二者)や進路説明会等が有効であったか。センター試験結果、難関大合格状況、現役進学率(国公立30%、早慶上理も含み50%)の達成状況はどうか。「新・進路指導プログラム」は策定できたか。	①進路決定のガイダンスなどの満足度1年63%、2年76%であった。国公立大学の前期までの現役合格者は95名、難関国公立大は15名である。保護者対象進路説明会が実施できなかったため、生徒対象進路説明会にて丁寧な情報提供を行った。また、出願指導検討会を実施し、全担任が現状を把握し面談にて活用した。	①国公立大の推薦入試枠の増加に向けた対策、進路説明会の実施及び内容について一層研究を深め、共通テストは全員が全科目受験する学校であるようにしていきたい。52期生の進路状況は結果を待つところであるが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出す指導を進める。	①進路関連ガイダンスの満足度を高められるよう、生徒のニーズをより正確に把握し、その充実を図ってほしい。大学との連携は、積極的にICTを活用し、さらに幅を広げることを期待する。また、出願指導検討会の設置は、個に応じた指導に大変役立つ手立てであると評価できる。	①学力向上進学重点校の指標である難関国公立大学等の現役合格者は15名、スーパーグローバル大学への進学率は28.7%の水準を超えることができた。国公立大学後期合格者は24名(前後期合計127名)であり、後期まで出願して諦めずに取り組む大切さを3学年に伝えていく。また1、2年生には選択科目を決める際に国公立型を意識するよう指導する。	①生徒が望む第一志望実現のために、選択科目説明会や難関大ガイダンスの内容を精査し、学校全体で更に意識を高める。 1年生には、夏季休業中のオープンキャンパスへの参加を促し、2年生には国公立大学を意識した選択科目の説明、3年生には年3回の面談と、12月、1月の出願指導検討会を実施し、教員全体での共通理解を図る。また、「進路指導プログラム」を再構築し、すべての教員が高いレベルで進路指導が行えるようにする。
4	地域等との協働	①ホームページのコンテンツを充実させ、学校の特色と魅力を積極的に発信する。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動について、保護者、地域など、より広く情報発信に努める。 ②行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①本校の情報発信に対するアンケート結果はどうか。 ②外部機関や講師の活用状況、保護者・生徒の満足度等の結果はどうか。	①ホームページで、速やかな情報発信に努め、学校評価アンケートにおいて保護者の50%以上が学校の情報をよく伝えていたと回答した。 ②予定していた地域との連携などの活動の多くが中止となったため、充実していたと回答した1年保護者は13%に留まった。	①担当者に作業が集中しているため、各部署で作成できるようにし、即時性と内容の質の高いページを作ることができるようにする。 ②各活動のコロナ対策を十分に行い、保護者・生徒にも参加の意義を周知して、充実を図る。	①ホームページは情報発信の速さや、内容の充実度において年々向上している。より魅力的な内容にするために職員間の情報の集約方法等についての改善を期待する。 ②コロナ禍で自粛が続く、地域とのリアルな連携が厳しい1年であったが、ICTを活用した地域との連携は開拓の余地があると思われる。	①ホームページは部活動や三大行事の詳細ページ作成をはじめとして、コンテンツの更なる充実を努めた。一方で、部活動ページについては掲載後、リアルタイムでの更新が十分でないことが課題である。 ②コロナ禍で地域とのリアルな連携が厳しい中で、昨年度の改善方で挙げた防災教育については、消防署の協力により、充実した避難訓練を実施することができた。	①部活動ページはホームページ担当者のみならず、各部活動顧問と連携を図り、活動内容の積極的な発信に努める。 ②今後もコロナ対策を十分に行いながら、大学等外部機関、行政機関等、地域との連携を高めていく。特に、ICTを活用して、キャリア教育の強化に努める。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、緊張感のある防災訓練を継続し、安全安心な教育環境を整備する。	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備を更に推進する。	①状況に適した会議や校内研修などを、対面・遠隔の両形式より選択し、迅速で確実な実施を行う。 ②ICTの効果的な活用などにより、より一層の情報共有化や校務の効率化を図る。事故防止会議の計画的な実施、施設・設備の安全確認、防災対策の充実を図る。	①グループ及び学年の会議について、対面と遠隔の両形式での回数と充実度を測る。 ②円滑な改善の視点を持って校務の効率化を図れたか。事故防止会議の実施回数等かどうか。防災対策の充実は図れたか。	①緊急事態宣言期間中は遠隔形式で学年会議を実施し、グループの連絡等については掲示板等を活用して実施した。 ②打合せは電子掲示板を活用し、時間短縮を図った。事故防止会議は年間10回開催した。災害対策は避難訓練を3回計画し、2回実施した。災害発生時の対応を生徒自身が考えられるよう工夫した。	①職員が前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②会議設定の基本方針を策定し、効率よく、計画的に開催できるように計画する。安心・安全な教育環境を整備するとともに、防災訓練を通じて、思考力・判断力等を育めるようにしたい。	①②各種会議等が効率よく実施され、その形態についてもよく工夫されていた。感染症防止に向けた対策や指導の徹底、その細やかさは賞賛に値する。また、緊急時に対応できるような生徒自身の思考力・判断力の育成に向け、引き続きリアリティのある防災教育や避難訓練を実施してほしい。	①各種会議が効率よく実施され、学校運営が円滑に行われている。 ②第2回避難訓練を放課後実施し、生徒自身が自ら災害発生時の対応を考えることができた。	①各種会議を計画的かつ効率的に運営できるよう努める。 ②引き続きリアリティのある防災教育や避難訓練を実施し、生徒の思考力・判断力等の育成に努める。